

「文禄・慶長の役と熊本城出土瓦」

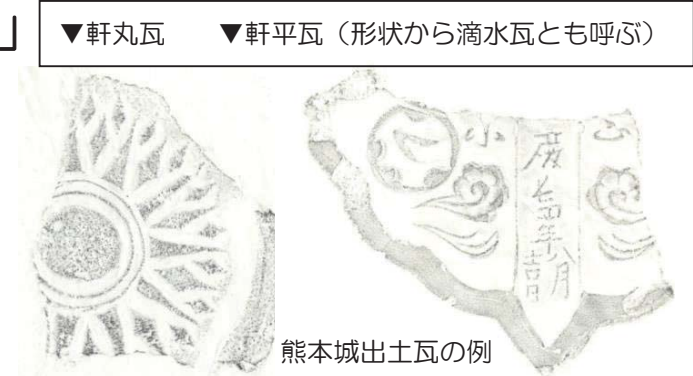
1 はじめに（文禄・慶長の役とは）

2 熊本城の瓦いろいろ

3 麦島城・姫路城など城郭瓦との比較

4 朝鮮瓦との比較 ※（高麗）～李氏朝鮮

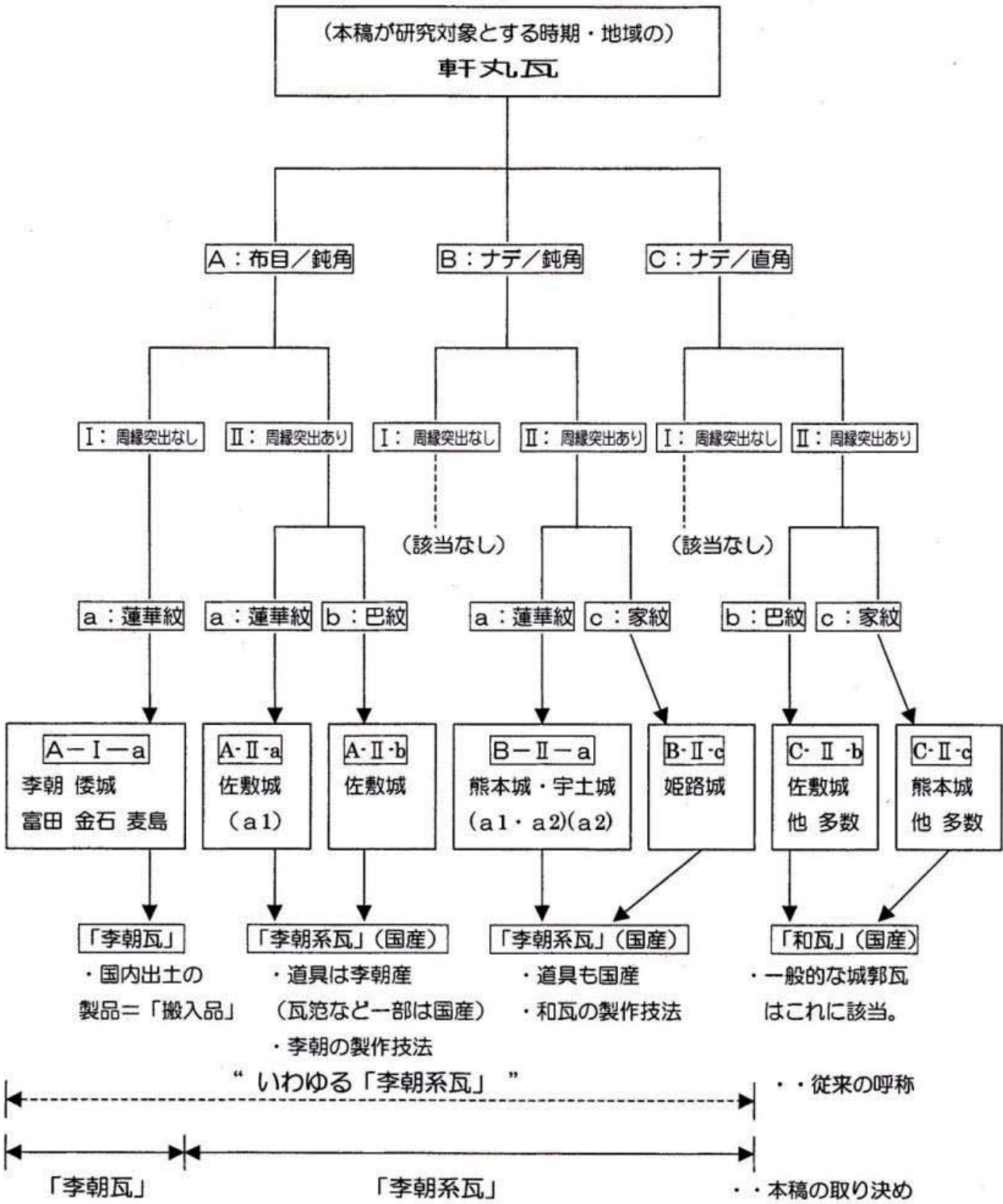
- 軒丸瓦
- 瓦当部分と丸瓦部分の接合角度が、鈍角（約 120 度）
 - 瓦当裏面から丸瓦凹面の一部にかけて、布目あり。
 - 周縁は突出しないものがほとんどである。
 - 瓦当文様は蓮華文がほとんどである。
- 軒平瓦（形状から滴水瓦とも呼ぶ）
- 瓦当部分と平瓦部分の接合角度が、鈍角（約 120 度）
 - 瓦当裏面から平瓦凸面の一部にかけて、布目あり。
- 丸瓦
- 丸瓦凸面には叩き（青海波文・綾杉文）。
- 平瓦
- 平瓦凸面には叩き（青海波文・綾杉文）。



	李 朝	倭 城	富 田	金 石	麦 島	佐 敷	熊 本	宇 土	姫 路
①接合角度が鈍角	○	○	○	○	○	○	△	△	○
②瓦当裏面に布目	○	○	○	○	○	○	×	×	×
③周縁の突出なし	○	○	○	○	○	△	×	×	×
④軒丸瓦蓮華文	○	○	○	○	○	○	○	○	×
⑤軒平瓦滴水瓦	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑥丸・平瓦叩き	○	○	○	○	○	○	×	△	×

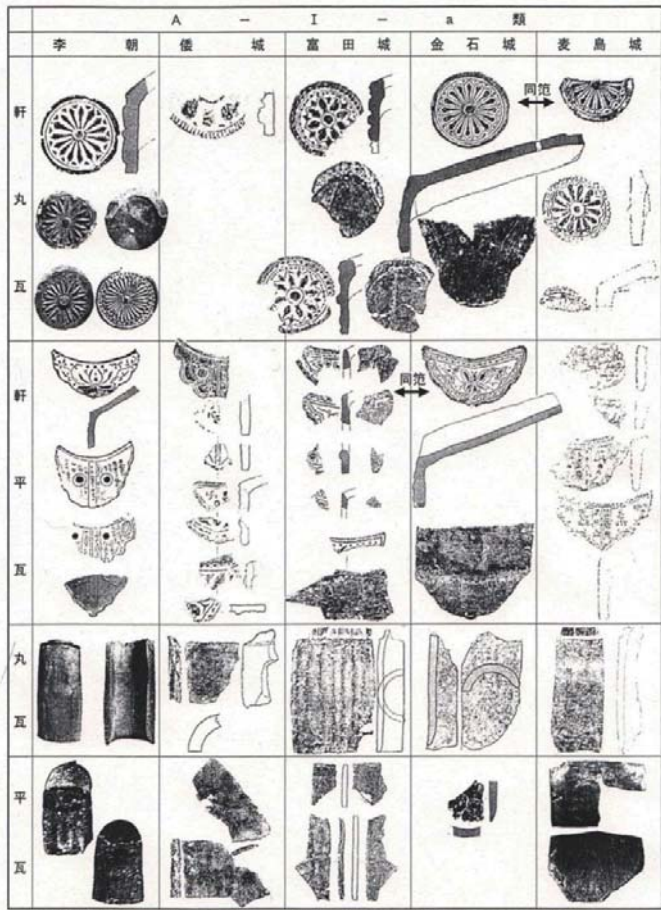
註）○・・・該当資料あり △・・・やや該当する資料あり ×・・・該当資料なし

第 1 表 「李朝瓦」といわゆる「李朝系瓦」の比較

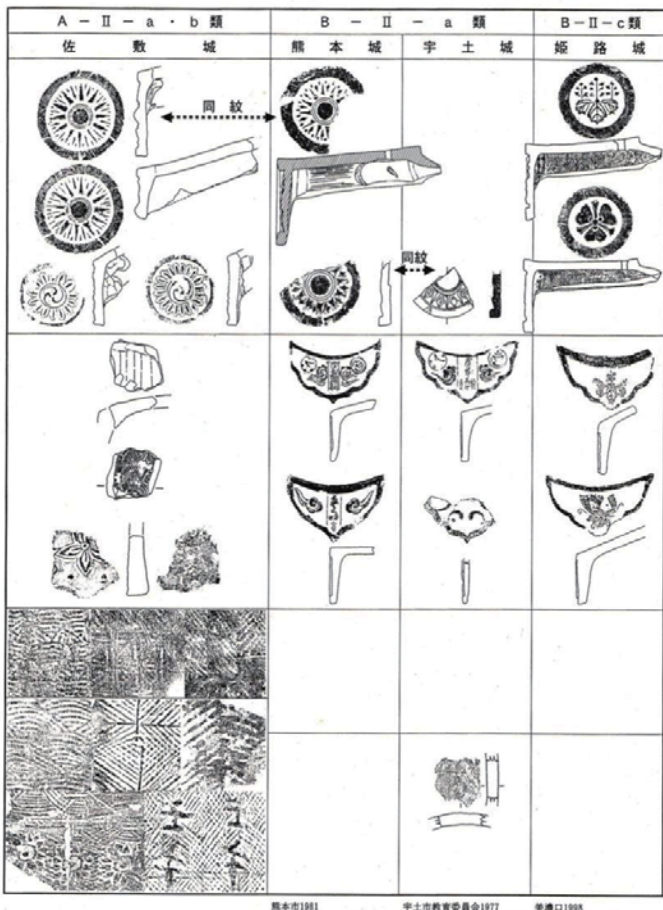


※第 2 章(2)「李朝瓦」の特徴で述べたように、「李朝瓦」は「周縁が突出しないものがほとんど」、「瓦当紋様は蓮華紋がほとんど」ではあるが、「全て」ではないと考える。例外が存在することもあるだろう。したがって、この分類図にあてはまらないからといって、「李朝瓦ではない」などと誤解しないでいただきたい。

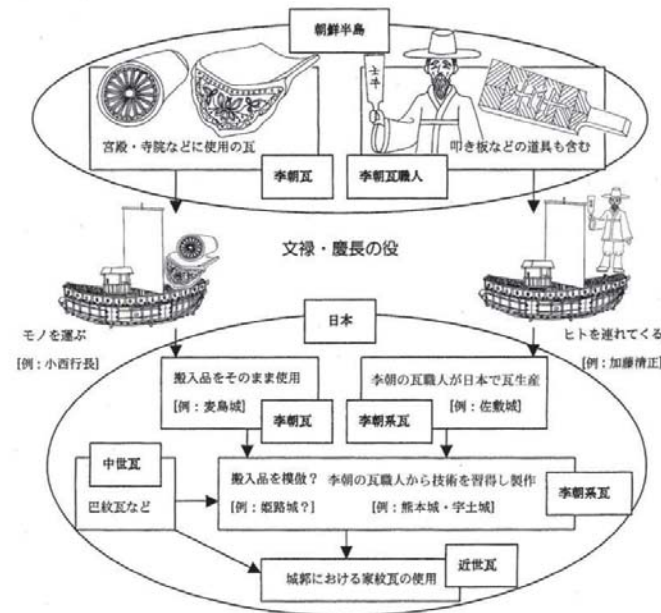
第 2 図 軒丸瓦の分類図



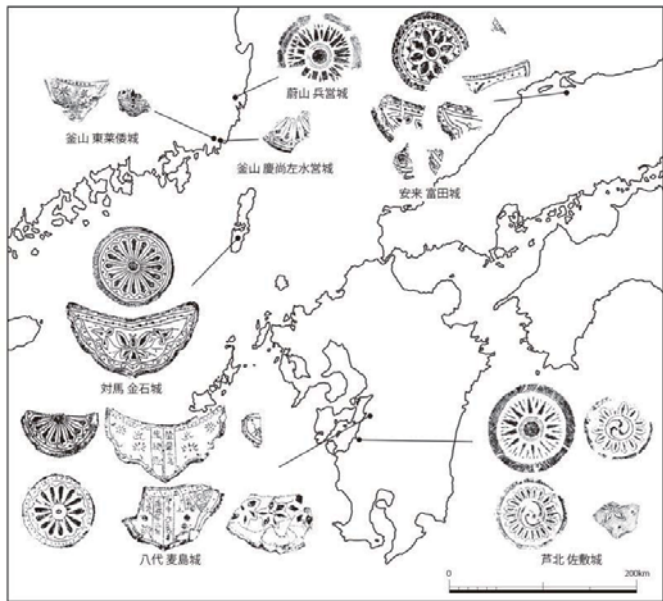
第3図「李朝瓦」と「李朝系瓦」の比較 (1)
※第3図の矢印で結ばれた瓦は、互いに同范関係 (←→)、同紋関係 (←-----→) にあることを示している。



第3図「李朝瓦」と「李朝系瓦」の比較 (2)
※本稿では、范係によって「同范品」と相互に確認されたものを「同范関係」、一方、紋様構成が同じものを「同紋関係」と呼んでいる。



第4図「李朝瓦」と「李朝系瓦」概念図
※安宅船については、安宅船見取り図（八王子市徳松院蔵）及び安宅船模型（大坂城天守閣蔵）を参考に筆者が描いたもの。
文様：松本1998



第5図 「朝鮮瓦」の同范関係（高正龍 2015）

←第6図 近年韓国で発見された蓮華文軒丸瓦と「口曆庚寅八月日成口造」銘軒平瓦（滴水瓦）
蔚山発展研究院 2010『慶尚左兵営城建物址』
★いずれも熊本城出土瓦と文様がそっくり！！

5 熊本城出土瓦から何がわかるか



①忠利	1632-1641	②光尚	1641-1649	③綱利	1649-1712	④宣紀	1712-1732
⑤宗孝	1732-1747	⑥重賢	1747-1785	⑦治年	1785-1787	⑧斉茲	1787-1810
⑨斉樹	1810-1826	⑩斉護	1826-1860	⑪韶邦	1860-1869	⑫護久	1869-1871

6 まとめ（近年の研究成果も含む）

- ①16世紀末の文禄・慶長の役は、日本の焼物に対してだけでなく城郭瓦の生産に大きな影響を与えた。
- ②滴水瓦はステイタスシンボルとして全国の城郭で大名が採用した（熊本城・姫路城など）。しかしその導入方法（文様が製作技法か等）は大名によって異なる（加藤清正・小西行長・池田輝政等）。
- ③熊本城においては「慶長四年八月吉日」銘の滴水瓦を端緒として、その後は18世紀半ば以降に、江戸後期の細川歴代藩主が年号入りの滴水瓦（延享・明和・文政・天保・・・）を使用している。
- ④韓国蔚山慶尚左兵営城出土の軒丸瓦が、芦北町佐敷城出土例と同范品であることを確認（熊本城出土例とは同文）※2014年立命館大学：高正龍氏ほか。また滴水瓦も熊本城例と酷似した製品が存在。

⇒熊本城出土瓦（のうち冒頭の軒瓦セット）は、李朝瓦の影響を受けて、日本で製作された李朝系瓦。

文禄・慶長の役で加藤清正が搬入。韓国（李朝瓦）→佐敷城（李朝瓦が出土）→熊本城（日本産）

【引用・参考文献】 ※もっと詳しく調べてみたい方へ・・・

- ・美濃口紀子 1998「熊本城出土の李朝系軒丸瓦—いわゆる「日足紋瓦」をめぐる問題—」『織豊城郭』第5号 織豊期城郭研究会
- ・美濃口紀子 2003「熊本城瓦復元模型製作の試み」（協力：藤本鬼瓦）『熊本博物館館報』No.15 熊本市立熊本博物館
- ・美濃口紀子・白木原和美 2004「織豊城郭における李朝瓦の移入と展開—佐敷城跡出土のいわゆる李朝系瓦を中心として—」『佐敷城跡』芦北町教育委員会
- ・高正龍 2015「蔚山慶尚左兵営城と熊本佐敷城の同范瓦—豊臣秀吉の朝鮮侵略と「朝鮮瓦」の伝播 2—」『東アジア瓦研究』第4号 東アジア瓦研究会・・・ほか